

貨物施設を最大50%拡張

■関西空港、デジタル化など推進

関西エアポートは17日、関西空港の国際貨物地区改修プロジェクト「Cargo Next→」に着手すると発表した。「次の30年」を見据えた機能強化策となっており、貨物施設を長期的に最大50%拡張することを盛り込んでいる。貨物施設の拡張・改修とともに、デジタル化の推進・施設の効率的配置、ステークホルダーとの連携強化、労働環境の改善、環境負荷低減に向けた取り組みも検討、実施する。

関西国際空港は1994年の開港から30年以上が経過。これまでに関係者と連携して、日本最高品質の医薬品輸送サービスをはじめ、さまざまな貨物輸送需要に対応してきた。今後のさらなる需要に対応し、将来的な潜在需要を取り込むために貨物地区改修プロジェクトを開始することとした。

上屋拡張に関しては短期的には5%の拡張を計画している。施設リノベーションも同時に検討する。エリア内における上屋の再配置、デジタルトランスフォーメーション(DX)や自動化技術の導入を検討するとともに、貨物地区の通勤・食事環境の改善にも取り組む。電動トラックをはじめとした

充電設備などの脱炭素化策、水素を活用した環境対策も推進。「KIX Cargo Community」の強化を図る。

現在、貨物上屋はほぼ満床の状態で、将来的に貨物上屋キャパシティを拡張して潜在的需要を取り込む。高齢化や生活様式の変化に伴って、医薬品市場やeコマース(EC)市場の拡大などの変化にも柔軟に対応できる施設を整備する。併せて労働環境改善に貢献する施設へと機能を向上させる。

当初10~15年の優先事項として①西日本の航空貨物ゲートウェイの実現(貨物ステークホルダーと戦略的に事業提携し、貨物の集約を図る)

**Cargo
Next→**

次の30年を動かす。

貨物地区改修プロジェクトに着手する

②医薬品輸送で日本最高品質のサービスを提供(KIX Medicaの機能強化、航空機から上屋まで一貫したケルチーンの実現)③主要市場でのポジションを強固に(加速するEC需要をとらえた事業展開、フライトネットワークを充実によって多岐にわたる航空貨物需要に対応)——を掲げている。

関西エアポートは「動かせ、未来の物流。」を標語に掲げるとともに「次の30年を見据えて、貨物地区への投資を加速する」「関西空港をご利用いただきステークホルダーの皆さんとともに魅力ある貨物地区をつくっていく」と強調している。